大阪大学運営方針会議（令和８年度 第１回）議事要旨

日　時　令和 8 年 6 月 24 日（水）10 時 00 分～12 時 00 分

場　所　大阪大学中之島センター　8 階中会議室

出席者　井野瀬委員（議長）
　　熊ノ郷総長
　　ビール、大石、津賀、永井、安浦、藤尾、田中　各委員
（陪席者）尾﨑、髙田　各理事、野々村総長参与

議事に先立ち、井野瀬議長から、前回（令和 8 年 3 月 18 日開催）の議事要旨について、事前に各構成員に照会し、内容を確定した旨報告があった。

議　　事

1　長期借入金の償還状況について
尾﨑理事から、配付資料に基づき報告があった。

2　令和 7 年度資金運用状況について
尾﨑理事から、配付資料に基づき報告があった。

3　令和 7 年度決算について
尾﨑理事から、配付資料に基づき説明があり、審議の結果、これを決議した。
本議題に係る学外委員からの主な意見は次のとおり。

○　統合診療棟といった多額の投資が行われたものついては投資規模に見合う適切な経営を行う必要があり、企業的な経営の視点が重要である。
○　統合診療棟は建てただけでなく、実際に十分活用して診療収入を伸ばさないと費用負担が重くなる。投資しても償却できず収入が伸びないと経営バランスが崩れた例もあるため、「建てたら使う」という意識を現場に徹底し、認識のずれを防ぐ必要がある。
○　企業のみならず大学経営においても、無形資産をどのように評価するのか、何によってどう測るのかといった点は非常に重要である。
○　人件費を単に固定費として見るのではなく「外部資金の獲得」の観点から人的資本を資産として捉えることが重要である。特に外部資金獲得額が多いスター研究者や、若手研究者の外部資金獲得額を増やして「稼げる研究者」として大学に定着させることが重要であり、その把握のためにも、外部資金獲得額上位 5～10%層の動向（異動状況、年齢構成等）を分析し、大学の強みとして意識することが望ましい。
○　大阪大学として重視している事項やその KPI を資料に追加すべきである。
○　大阪大学がフィランソロピー型の寄附（卒業生以外の一般の方からの寄附）の機運を醸成することで、アカデミアにおける寄附文化を変えていくことを期待する。

4　指定国立大学構想に関する進捗状況〈令和 7 年度特筆すべき成果〉について
熊ノ郷総長から、配付資料に基づき報告があった。

本議題に係る学外委員からの主な意見は次のとおり。

○　指定国立大学法人制度の趣旨には、我が国の大学を世界大学ランキングの上位（トップ100）により多く位置付けることが含まれていることから、大阪大学の優れた成果を発信する際は世界ランキングとの関係性も踏まえた発信をすべきである。

○　複数の指標を総合的に用いて評価される「トップ 2%研究者」が近年注目を集めており、当該研究者をどれだけ擁しているかが大学の評価の観点となり得る。大阪大学は当該評価において上位に位置する可能性があることから、今後、人数のみならず年齢構成等も含めて可視化し、アピールポイントとして積極的に発信していくことが重要である。

○　企業、一般社会、研究者、受験生など、広報の対象によって訴求すべきメッセージやアピールポイントが異なるため、ターゲット毎の広報戦略が必要である。また、大阪大学には発信すべき材料が十分にあると考えられることから、それらを整理して効果的に伝えるための実行計画を策定すべきである。

○　海外大学では、パブリック・リレーションズを担う専門部署を設置し、外部から専門人材を登用して体制を整えている例が多くある。他方、日本の大学ではそのような部署が十分に整備されていないため、国際競争力を高めるには、専門人材を配置した組織体制の構築が必要ではないか。

○　研究活動の活性化と併せて、学術機関として人材育成、研究倫理・道徳の涵養を大阪大学として一層重視し、その取組を広報していくべきである。

5　国立大学法人評価 第４期中期目標期間　４年目終了時評価に係る「達成状況報告書」及び「業務実績報告書」について

髙田理事から、配付資料に基づき報告があった。

本議題に係る学外委員からの主な意見は次のとおり。

○　大学教員の平均年齢の上昇について、日本全体の大きな課題として各大学で対策を検討すべきである。

○　デジタル技術の活用という観点だけではなく AI の発展の方向性やそれに伴う倫理的課題について、今から十分に意識して対応すべきである。併せて、AI の普及が大学運営や人間関係、さらには人の心理にも影響を及ぼし得ることから、そうした変化も視野に入れた検討が必要である。これらを踏まえ、情報領域を中心に今後大きな変化が見込まれることから、人文・社会科学の重要性も再認識しつつ、次期中期目標へ盛り込むべきである。

6　前回のご意見等に対する取組状況について

熊ノ郷総長から、配付資料に基づき報告があった。

本議題に係る学外委員からの主な意見は次のとおり。

○　大学病院は教育・研究を目的とする一方で、その経営は大学の教育研究の一翼を担っている。研究・教育と同じ土俵で、あるいは教育・研究をさらに展開するために経営という視点が重要である。

（以　上）